

第4次富士見市生涯学習推進基本計画（案）についての意見と対応  
(R7.9.10 生涯学習推進市民懇談会)

章	ページ	意見	対応
第1章	P3-5	■4 富士見市の考え方は、国・県の考え方を踏まえているのか、第2次からの継承のことしか書いていないから違和感がある。	ここでは富士見市の今後の考え方ではなく、富士見市の生涯学習の基本理念を述べています。この項目が国・県の後にあることにより、違和感が生じていたため、■4と■3の順番を入れ替え、「富士見市の生涯学習の考え方」ではなく「富士見市の生涯学習の基本理念」に題名を変更しました。 国・県の動向を踏まえた今後の考え方については第2章の■6に第4次計画の方向性として記載しています。
第3章	P16	年に1度ではなく、サークル活動への継続したサポートが必要。今は出来ないように感じる。	サークル活動へのサポートは、生涯学習（社会教育）施設の役割の一つです。●相談体制の充実の①学習相談や団体活動に関する助言・支援として、力を入れて取り組んでまいります。
第4章 ①（1）	P34	部活動の地域移行についての記載がない。	学校教育課に確認し、基本目標①（2）推進体制の充実の学校と地域の連携の充実に「部活動の地域転換に向けた検討」を追加しました。
第4章 全体	P30-47	KSFとKPIの考え方が一般的なものとあっておらず、表現がおかしい。	市の計画と合わせています。第2章（P7）に第3次計画の構成を追加し、KSFとKPIについての本計画での定義を明示しました。
第4章①	P30-36	こんなことをしたいという個人の発言が全体に投げかけられるような場があればと思う。	実施方法も含め調査・研究いたします。
第4章①	P36	情報共有に留まらず、具体的取組を遂行するに当たり、担当部署を芯として効果的に事業を推進できるように実行上の連携を図れることが望ましい。	新たに生涯学習担当者会議を開催し、庁内の連携体制及び協力体制の強化を行い、課題解決に向け一体的に取り組んでまいります。

第4章① (1)	P31	③高齢者の学習機会の充実について、既存の学生が減っているのに新たにいい人がいない。そこに踏み込んだ書き方をしてほしい。またインフルエンサーの活用など新しい取組が必要	高齢者学級については、交通手段についての課題が上がっており、送迎付事業等の拡充の検討を追加しました。新たな参加者が増えていないのは生涯学習全体の共通課題でもあるため、重点施策を中心に組み込んでまいります。インフルエンサーの活用については具体的には記載しませんが、計画の推進に当たって、学習情報の発信の一つの新しい取組として今後検討を行います。
		高齢者の交通手段が課題である。	③に送迎付事業等の拡充の検討を追加しました。
		公共バスが少ない。交通手段が少ない	
その他	P32,33	富士見市行政としてもSNSの活用支援、民間（デジタル）サービスの共有など考えてほしい。	民間（デジタル）サービスとの共有は、他市町村も含め、次期計画期間に調査・研究を行います。また、生涯学習団体へのSNSの活用支援についても今後研究してまいります。
第4章② (1)	P38	YouTubeなど動画を活用した情報発信を行った方がよい	計画案には具体的に記載はしませんが重点施策（情報発信の充実）の一環として検討してまいります。
第4章②	P37-40	公共施設に関わらず、個人宅など活動の場を認めてもいいように思う。	個人宅などの活動についてまで、こちらでの把握は困難であるため記載はしません。（計画としての進捗管理が困難であるため）
第4章② (2)	P39	人材バンク登録者の発表する機会があった方がよい。それをYouTubeに配信したい。	計画案には具体的に記載はしませんが重点施策（情報発信の充実）の一環として検討してまいります。市民人材バンク推進員の会と連携し、発表機会については検討してまいります。
第4章②	P40	全体的に子ども・若者・子育て世代にフォーカスしすぎている。新しい担い手には現役世代や単身世代も含まれる。	（3）新たな人材の発掘の③地域と連携した新たな地域交流機会の創出については、「若者や子育て世代が気軽に～」という表現を「若者や子育て世代を中心とした全世代が気軽に～」に修正しました。
	P40	基本計画だから対象が若者にとらわれず曖昧にして良いのでは	
第4章③	P41-45	日常的な学習成果の発表の場、交流の場としてSNSの活用	発表の場としてのSNSの活用は、情報発信にもつながるため、重点施策である情報発信の充実の一つとして検討してまいります。
第4章④	P46-47	施設は充実しても交通手段に難がある。	基本目標①（1）の③高齢者の学習機会の充実に送迎付事業等の拡充の検討を追加しました。

第 5 章	P29	計画にゴールについてや、結果によって事業の見直しを行うといった内容を書いても良いのでは。	5 年間の短期の計画であるため、記載はいたしません。
第 5 章	P29	PDCAサイクルの中で評価する主体が各施策の担当部署となっている現状だが、市民実感とそぐわない場合もある。一層具体的数値目標達成具合を活用すべきと考える。	今回はアクションプランではありませんが、重点施策を中心とした進捗管理シートを作成し、毎年市民懇談会でもご意見を頂戴する予定です。数値目標が掲げられる事業については、数値目標を設定し、分析等も行います。
その他		市民参加の取組みについては、取り組み内容・期待される効果が明確になるようアンケートの実施により市民の声を把握していただきたい。	市民アンケートモニター調査は今後も毎年実施していきます。市民アンケートについても計画期間中の実施について前向きに検討いたします。
その他	P31,44	障害者（児）、外国人についての施策が手薄に感じた。例えばパラスポーツの普及・理解促進。就労だけでなく居住する方、学生の外国人が増加することを予想し、疎外感を抱くことがないよう「つながりづくり」を支える取組みを充実してほしい。	パラスポーツの推進は、基本目標①（１）の④障がい者の学習機会の充実に記載しています。 また、外国の方との交流については、基本目標③（３）に⑥異文化との交流機会の推進を追加しました。

※第 5 章の内容は第 3 章の■ 5 としました。